2023年10月1日現在

登録番号　第　21482　号

Dr.オリゼ®アドマイヤー®箱粒剤

特長：	●育苗箱施用で、水稲初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類等を同時防除できます。 ●育苗箱当り50ｇ施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。 ●育苗箱施用だけでなく、移植時側条施用、湛水直播水稲でのは種時土中施用もできます。

Dr.オリゼは三井化学クロップ＆ライフソリューション㈱の登録商標、アドマイヤーはバイエルクロップサイエンス㈱の登録商標です。

有効成分	イミダクロプリド（化管法第１種）・・・2.0% プロベナゾール（化管法第１種）・・・24.0%	包装	1kg×12 9kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】　　2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	3回以内 （は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）	2回以内 （は種時までの処理は1回以内）
稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類	1kg/10a	移植時		側条施用	3回以内 （は種時（直播）又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）	2回以内 （移植時までの処理は1回以内）
稲（箱育苗）	いもち病 白葉枯病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50～100g）	移植2日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	3回以内 （移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）	2回以内 （移植時までの処理は1回以内）

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
(2) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。

(3) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
1) 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
2) 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
3) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
(4) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
1) 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、そのまま田植機にかけて移植すること。
2) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
3) 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
4) 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
5) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
6) 誤って過剰に使用したり、本剤使用後 3 日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
7) 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
8) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1箱当りに乾籾として200から300g 程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
(5) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田は使用をさけること。
(6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
(3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
(4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
(5) 夏期高温時の使用をさけること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

(1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう注意して使用すること。
(2) 使用後は水管理に注意すること。
(3) 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。